

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
第131回放送の概要 (2018年3月24日放送)

パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

かりん

(妹尾優香)



ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

会計

小山俊則

相談役

わだかん

(和田幹司)

**1. ゲストコーナー(1) 飯塚由美子さん(明石市立あおぞら園、きらきら施設長)、**

**浅原奈緒子さん(株：ソワサポート代表 69 陽会)**

飯塚さんは、障がいがある方の支援を40年間されているが、そのような仕事を選んだきっかけは、中学生の時にはこのような仕事につきたいと思っていたそうです。兄弟、家族、身内にも福祉関係の人はおらず、3月生まれで早生まれで、何故かなかよし学級に入り、知的障害のある6年生の女生徒と隣の席で、そのことが今思えばきっかけかなと思う。小さい時から正義感が強く、小学生の時から困っている人がいるとすぐに何かしたくなる性分であった。両親から愛されて育ったという実感がある。今も思うのは、愛された人は人を愛することが出来るという思いは自分の中にある。養護施設など親御さんに恵まれなかった子ども達に多く接しているが、親でなくても廻りの大人が、その子どもを心から愛することをしていけば、その子どもの中には安定感、愛情が育ってくる。そのように育った子ども達は、一生他人にもしっかりと思いやりをかけてあげることが出来る人になる。

明石で現在施設長をしている施設は、通園している子ども達が対象であるが、入所施設の場合は関わりが難しい子どもがいることがあるが、最近は虐待を受けている子どもが多い。知的には軽度な場合でも父親から性的虐待を受ける、煙草を押しつけられる、ネグレクトされる子どもが多い。知的障害は認知が遅れている、低いことから、生きていきにくさがあり、生きていきにくさがなければ知的障害に分類されない。全体的に発達障害とか言われるが、苦手なところがありその結果知的に低くなり、療育手帳に知的障害と記入される子どもも多い。認知が少し遅れているために、わかりにくいことが多い子たちと思ってもらえればよい。

飯塚さんが最初に仕事を始めたのは、西区にある社会福祉法人樅の木福祉会で、大人の入所施設のゼノの村でした。そこには18歳~80歳の方が生活をしており、今は就労支援と言うが、昔は授産施設と呼ばれていた。ゼノの村では凄いい数の豚を飼い、野菜を作り、にわたりの有精卵をとり、草木染めで機織り

し、陶芸をしていた。19歳の女性が、親に捨てられ養護施設で育ち、知的にも障害があるということで入所してきたが、愛着障害のため、常に飯塚さんに密着していた。ある時やきもちから、他の人と接しただけで、突然目から火が出るほどの暴力をふるわれたことがあった。そんなに不安に感じているのかと思った。

その後、社会福祉法人三田谷治療教育院に移った理由は、縦の木福祉会では3歳～80歳までを支援対象としており、それまでは就学前の小さな子どもは見ていなかったためである。三田谷治療教育院は、一般法人設立90周年を迎え、120年の歴史がある滝之川学園もあるが、当法人も10本の指に入る古い施設である。創設者の三田谷啓（さんだやひらく）は、治療教育の理念をドイツから日本に持ち帰り、芦屋に施設を作った。三田谷啓が力を入れたのが、「母と涙の二等分」という言葉にもあるように、親御さんと喜びも辛さも一緒に共感して、お母さんに寄り添うことが子どもの支援であると語られた。日本中で母親教室として講演されていた。創始者の気持ちを自分達は受け継いでいかなければならないとの気持ちから、あおぞら園の子ども達の親御さんに寄り添うことを基本においている。

あおぞら園ともう一つの施設きらきらの違いは、支援内容は同じであるが、あおぞら園は児童発達支援センターであるため地域支援もする必要があり、通園する園児の他、地域住民の支援、発信、啓発を行っている。あおぞら園は週5日、きらきは週に1～2日親子療育として間接支援をしている。

（注）「療育」とは、発達障害など様々な障害を持つお子さんに、その特性による生きにくさを改善し社会自立やより制約の少ない生活ができるよう、医療や専門的な教育機関と連携して、必要なトレーニングを施していくこと。



明石市立あおぞら園／きらきら

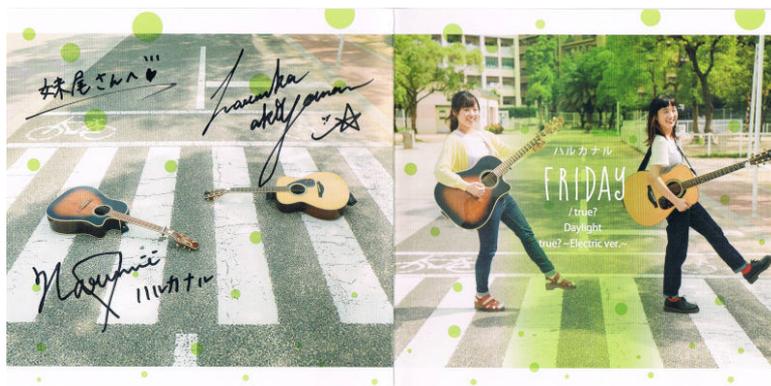
障害がある人に対応する時に気をつけていることは、知的障害のそれぞれの症状、たとえば耳で聴くより目で見た方がよい場合は、写真提示をして説明する方法はあるが、それは知識があれば出来ることで、その人と普通に接して普通に話をし仕事をすればよい。仕事をする中でまたカンボジアの子ども達を支援する中で、気持ちの中に持ち続けているのは、「目の前に困っている人がいればすぐにお手伝いをすべきで、支援が出来なければ支援者ではない」と常に思っているので、そこで「大丈夫」と言われたら引けばよいことと思っており、肩を張るようなことは全くない。

国の制度として、各市町村に作ることになっている地域自立支援協議会において、障害がある方が地域でしっかり生きていく上で必要な事を、制度へ提言する役割があり、飯塚さんはその協議会の子ども部会長をしている。またこれとは別に障害がある方の135Eネット（明石障害者地域生活ケアネットワーク）という130団体ほどが加入している団体があり、ここでも活動をしている。そして一つの取り組みとして、まず皆に知ってもらうために1万人メッセージを行っている。「障害がある子ども達が生き生き

暮らせるために何かお考えがありますか」を一般の方に聞き、「差別偏見を許さない」といった一言をビデオに撮り、イベントなどで紹介する取り組みをしている。今は 1000 人余り集まったが 1 万人まで頑張りたい。一般の人が考えメッセージを言うことで意識を広げていく。啓発すなわち知って頂くことが一番大事と思って取り組んでいる。マザーテレサの言葉に「愛することの反対は無関心」という言葉がある。

## 2. ミュージック：

お送りしている曲は、デュオグループのハルカナル作詞、作曲、歌による「DayLight」です。



## 3. ゲストコーナー (2)

飯塚さんは、カンボジアの障がいがある子どもの生活・教育支援をしているNPO法人スロラニプロジェクトの代表をされている（法人設立は 2013 年 8 月）。クメール語のスロラニの意味は、「愛する」です。当初は「すまろい（夢）こ〜ん（こども）プロジェクト」という名前で活動していた。既存の学校にノートなどの文具を寄贈したり、一緒に遊んだりしていた。カンボジアを選んだ理由は、メンバーの一人である服部記昌さんがスタデーツアーに行き、帰国後飯塚さんとクララバーカリーの石倉泰三さんに、取りあえずカンボジアに行ってくれ、何かが出来ると強く誘われた。実際に行くと、ひどく貧しい国で、子ども達が物乞いをしており、何かしなければという気持ちになった。

カンボジアではどんなことをしても役に立つと思った。日本人が支援する場合、現地の人々の気持ち、国の状況、宗教などを大事にしながら支援させて頂こうと常に思っている。ちょっとしたことをしても凄く喜んでもらえると思い、役立つならやりがいがあると思った。世界遺産のアンコールワットがあるシャムリアップが凄く居心地がよいことも多少影響がある。カンボジア人は非常に明るく、人柄がよく、日本人に対していい印象を持っている。

NPO設立前の活動で、2010年コンサイン村小学校を訪問した時、学校関係者から通学用のカバンが欲しいとの話があり、帰国後カバンが必要と発信したところ、長田の障がいがある方が働く作業所が、自分達の商品作りを中断し、100個の手作りカバンを作ってくれた。そのかばんを小学校に持参し、その状況を撮ったビデオを作業所の皆さんに見てもらった。常に支援されているという気持ちを持っている作業所の方が、支援する側にたてたことはよかったという感想を頂いた。

シムリアップではライフラインは問題ない。20~30分車で走った村では、電線はあっても水は井戸

で、村の仕事は農業で、水害が起きると畑が水没するので仕事が出来なくなり、タイに出稼ぎに行っている。子ども達も学校をやめて親と一緒にタイに行く。

**私たちのスロラニユ小学校建設**について、ある時村の方から学校を建設してほしい（3か所）との話があった。話を聞くと、1か所目は前に作った学校が倉庫になっているということで断り、2か所目は図書館がほしいということだったが断った。3か所目のコムロー村は、プノンペンに通じる大きな幹線道路の6号線があり、村から渡った所に日本人が作ったドントロー小学校があり、村からの通学時に年間2〜3人交通事故で亡くなっていた。1〜3年生用の分校をコムロー村に作ってほしいということであった。子どもの命には代えられないと即決し、2教室の学校を作ることにした。

学校建設には棟梁の大工さんと村人が参加すれば作れるが、その時はボランティア募集のポスターを日本人経営のゲストハウスに掲示したところ、日本の若者が口コミも通じて200人以上が参加してくれた。ほぼ日本人ばかりで韓国人、デンマーク人、オーストラリア人が少数参加した。日本人の若者は旅行スケジュールを変更して学校建設に参加してくれた。建設費用は220万円で、NPOと一緒に立ち上げた人が働く埼玉の企業の社長が、当初100万円出すと言ってくれたが、東北震災でストップした。急遽自分達で友達関係、バレー部後輩などあらゆる知人を通じて寄付をお願いし、調達することができた。完成した時はボランティアの仲間全員が泣いていた。建設中は子ども達は遠巻きであったが、若者がおいでと呼びかけてから、子ども達と毎日一緒に楽しく作ったので、完成した時は若者も子どもも皆が泣いていた。校長先生が何故泣いているのと言ったが、感激でうれし泣きは多くあることではないので、大人たちがびっくりしていた。3か月間で強い繋がりが出来た。



スロラニユ小学校



スロラニユ小学校

カンボジアでは障がい児には国の支援はない。昔軍隊にいた人は証明書があれば年金はある。それは日本の120年前の状態と思った。障がい者は座敷牢に閉じ込められ、肢体不自由な人はそこで垂れ流しの状態であった。仏教国のため、先祖が悪いことをしたために障がい児が生まれたと考え、隠すことがある。今支援している親御さんをみると愛情を持って育てている。しかし学校は行くことは出来るが、ついていけないので殆どがやめてしまう。

支援の内容は、ひどい場所に住み、親御さんがおらず食べるものもない人達、学校をやめた小学生がお兄ちゃんを食べさせている兄弟に食べ物支援など、金銭や物の支援をした。妹が世話をしていた青年は、妹の世話が無理な状態になり、NPOが支援してきた孤児院センターに青年をお願いした結果、妹達もし

っかり生活出来るようになった（日本では相談支援と言っている）。

浅原さんは今年2月の訪問に初めて同行した結果、自分の得意分野を生かすことができるのではと思った。学校についていけない子どもがいたので、スクリーニングで弱いところ、出来るところを確認した。教育がどのように行われているかを見て、今後みんなが自分と違うことを認めあって一緒に教育を受けられるよう、まずは周りの人が教育を受けなければならないと思った。どんなところでどんな教育が必要か、本人にはどのような配慮をすれば楽しくみんなと一緒にやってくれるのか、伸びる可能性のあるところを伸ばしてあげられるのか、などを見ることができた。カンボジアでは研修を受けたり、世界の障害に関する宣言を批准しているが、現実として現場では障害児教育を実践している人には出会えなかった。



師範学校訪問



救急救命セミナー



歯科医によるブラッシング指導



理学療法士による障がい児の対処法指導

これから取り組むのは大変だが、飯塚さんのこれまでの取り組みが土壌として育っていること、今回も師範学校に行き、将来先生になる学生達にインタビューも出来、そこには付属小学校に子ども達もいるので、実践的にそこで将来の教員に障がい児教育を伝えていくことが出来ると広がりにつながるなど、色々な可能性を探りたいと思っている。スロラニプロジェクトのメンバーはそれぞれが救急救命、歯科などの専門分野で活躍し信頼を勝ち取っているのだから、その力をかりて障がい児についても何かが出来たらと思っている。

スロラニプロジェクトの活動に関する現地の行政の認識度について、当初は障がい児支援者だけが訪

問していたが、たまたま現地で救急救命士の高橋さんに出会い、一緒に参加頂けますかということで、救急救命セミナーを当初は村人、学校の先生、今は中学生、師範学校の生徒に対しても行っている。歯医者によるブラッシング指導も村や学校に対し行っている。当初障がい児支援を始めようとしても、それより貧困が先と言って取り上げてもらえなかった。救急救命、歯のブラッシングを継続的に行ってきた事で、また現地スタッフのパンナさんが、国のために日本人が一生涯懸命やってくれていることを行政関係者に伝えてくれた。アンコールワットを統括する、アプサラ機構という政府機関の職員への救急救命セミナーを2回開催できた。これまでアメリカがやってくれたが全然わからなかったが、凄く良かったと言ってもらった。知事さん他行政関係にも認識してもらえるようになり、昨年10月シエラレオネ州の福祉環境局のトップ、大きな学校の校長、自分達で作った学校の校長、孤児院センター長を日本に招き、障害関係の施設を詰め込みで見てもらい、帰国後日本の取り組みから自分達も考えねばという気持ちになってもらった。障がい児支援を本格的に取り組む時期が来たことで、2月には浅原さんに同行してもらった。

リスナーの皆さんへ支援のお願いです。

活動を続けるために資金が必要です。メンバーの渡航費、現地で必要な費用は全て自腹で賄っています。その中でロータリークラブからは一部の費用を提供して頂いていましたが、それも終了しました。NPO法人スロラニュープロジェクトカンボジア支援でホームページをご覧ください、賛助会員、正会員、寄付金の振込先が記載されているので、よろしくお願い致します。

明石ハッピースパイラルの岩佐さんは、インタビュー後の感想で、「飯塚園長はあれですね、一言で福祉の人・・・日本のマザーテレサ！ 想いが生き方になってますね！ それ！それ！！まさにマザーテレサ！」と記事に書かれました。

最初はあげさかなと思いましたが、お話を伺い、著作本「なぜ、カンボジア？愛すべき子ども達がいる王国」を読むと、岩佐さんの感想はその通りと思いました。

本日のゲストは子どもの頃から筋金入りの福祉の人でした。

#### 4. 地域瓦版

- ①本日のゲスト浅原奈緒子さんの、障がいがあるこどもの支援を考えるセミナー「乳幼児期の特別支援教育・療育について」が開催されます。明石のアスピア北館明石学習室 701 で4月14日（金）から14回開催されます。時間は19時～20時30分。費用は無料。
- ②兵庫高校創立110周年記念「ゆうかり芸術祭」が3月25日（日）にポートピアホールで開催されます。
- ③3月31日（土）10時～16時、兵庫駅南公園でこどもフェスタが開催されます。  
「みんなでこのフェスタをつくろう」がコンセプトです。そして、あそぼう！まなぼう！たのしもう！ベンチ作り、秘密基地作り、巨大バウムクーヘン作りなど多くの楽しめるコーナーがあります。

